

第5版

第1回更新版

環境活動レポート

30期(H19. 8~H20. 7)

Eco Action 21



平成20年 9月

沖縄市八重島2-13-9
合資会社 沖縄浄管センター
代表社員 座間味 唯康

目 次

1. 事業の概要	1
(1) 事業社名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 環境保全関係の責任者、及び担当者	
(4) 連絡先	
(5) 事業内容	
(6) 事業年度	
(7) 事業規模	
(8) 許可・登録	
(9) 産業廃棄物収集運搬許可の事業範囲	
(10) 受託した産業廃棄物の収集・運搬量	
(11) 廃棄物の処理料金	
2. 取組実績評価と環境目標	3
(1) 環境負荷の現状	
(2) 環境活動の取組結果の評価及び見直し	
(3) 31期(平成18年8月～平成21年7月)までの目標値	
3. 数値目標を達成する為の活動計画及び評価	4
4. 環境への取り組みチェック結果	5
5. 代表者による全体の評価と見直し	6
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	6

【経営理念】

- 『地球にやさしい環境造り』の一環として、我々はまず
公共下水道のメンテナンスを通じ、地域・社会に奉仕いたします。
- 我々は、常に思いやりの心を持ち、お互いに精進し、
よりよい・豊かな生活の向上を目指します。
- 常に、相違・工夫に努め『亜細亜の住みよい環境造り』の
一端を担える企業を目指します。

合資会社 沖縄浄管センター
代表社員 座間味 唯康

関連会社
株式会社 おきなわ浄環技建
代表取締役 座間味 唯康

【 環境理念 】

御一人様、たった一回きりの人生(活動)の中で、「かけがえのない地球」とその「環境」の中で育まれている事に感謝し、自然と大地との共同作業の結果としての「大いなる実り」によってのみ「生かさせてもらっている」喜びに感動を覚え、大地に両足を踏ん張って、地球と共に生きて行きたい。

「自然」という良き環境の中でこそ生物は生かされ、その喜びを感じ得るものだ

「天然」に勝る人工物は無いのである

「自然環境」こそが人間の生を司る

「自然」にこそ感謝をするべきである

「自然・天然色」に乾杯、そしてバンザイ！！

たとえ生き延びる為の正当な事業活動だとしても、他人に“羨望”されるような企業活動をしているとしても、常に地球環境を破壊する事なく、その環境の保全にこそ事業使命を感じ、軸足を置いて行きたい。

“母なる大地”への感謝の思いこそが全ての事業活動より優先されるべきだし、企業こそがその念の実行者(しもべ)となれる。

そのような仲間達(会社)の輪の一端に居る企業で有りたい！

【 環境方針 】

我々は「かけがえのない地球」の環境を破壊する事なく、その環境保全を企業活動の原点に定め、その実施に全社員一丸となって取り組み、「地球にやさしい環境作り」に貢献します。

- (1)環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善・向上、及び環境汚染の予防に努めます。
- (2)事業活動を通じ「コピー用紙の再利用・消費削減」、「燃料及び電気の使用量の削減」による省資源・省エネルギーを推進します。
- (3)「廃棄物の発生抑制」、「分別・リサイクル」率を高め、環境負荷低減に努めます。
- (4)下水道浄化センターの浄化水、井戸水等の使用率を高め、上水道使用量の削減に努めます。
- (5)県の平成18年4月より実施される「産業廃棄物に関わる税」の導入が「廃棄物の削減」を主体目的としている趣旨をお客先に熱心に訴え、島しょ県「沖縄」の廃棄物の削減に努めます。
- (6)環境に関する法律・規則、及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- (7)環境活動レポートを全社員に配布し周知徹底させ、環境保全の意識向上に努めます。

[改定履歴]

平成17年 8月 1日	発行

平成17年 8月1日制定
合資会社 沖縄浄管センター
代表社員 座間味唯康

関連会社
株式会社 おきなわ浄環技建
代表取締役 座間味唯康

1. 事業概要

1) 事業社名及び代表者名

合資会社 沖縄浄管センター

代表社員 座間味 唯康

2) 所在地

本 社 沖縄県沖縄市八重島2丁目13番9号

那覇支社 沖縄県那覇市銘刈322番地5号

関連事業所 株式会社 おきなわ浄環技建 本社 沖縄県沖縄市八重島2丁目13番9号
福岡支社 (現時点は営業の実態はありません)

※関連事業所(おきなわ浄環技建とは、連携して業務を行っており、本社も同一社屋のため、共同してEA21に取組んでいます。尚、代表者も同じです。

3) 環境保全関係の責任者及び担当者

統括管理責任者:技術営業リーダー 大城 康

担当者:現業部リーダー 比屋根 一 ・ 現業部リーダー 中根 順二

担当者:技術営業 目取真 みちよ

4) 連絡先

本 社 TEL:098(939)3915

FAX:098-939-3916

那覇支社 TEL:098(868)9876

FAX:098-868-9916

5) 事業内容

- ①公共下水道管渠等のTVカメラ調査及び維持管理業務
- ②管更生工事及び部分補修工事

○浄化槽保守点検業 第中部-20-20号(沖縄県)、
○建築物飲料水貯水槽清掃業 沖縄県中部保第18貯2号、

6) 事業年度

・期首:8月

・期末:7月

7) 事業規模

規模	単位	28期 H17.8~H18.7	29期 H18.8~H19.7	30期 H19.8~H20.7
従業員数	人	22	21	23
車両	台	19	19	19
売上高	百万円	193	196	197

※ これらは、本社及び関連事業所を含む数値です。

8)許可・登録

	許可番号	許可の有効期限
浄化槽保守点検業者	第中部-20-20号	平成20年 6月29日 ~ 平成23年 6月28日
建築物排水管清掃業	沖縄県中部保16排第2号	平成16年 7月 2日 ~ 平成22年 7月 1日
産業廃棄物収集運搬業	第04702046098号	平成19年 1月 8日 ~ 平成24年 1月 7日
建築物飲料水貯水槽清掃業	沖縄県中部保第18貯2号	平成18年 6月 3日 ~ 平成24年 6月 2日
一般建設業(管工事)	沖縄県知事(般-19)第7943号	平成19年 9月18日 ~ 平成24年 9月17日

9)産業廃棄物収集運搬許可の事業範囲

紙くず	○
木くず	○
金属くず	○
ガラスくず	○
コンクリートくず	○
陶磁器くず	○
がれき類	○
汚泥	○
廃油	○
廃プラスチック類	○
動植物性残さ	○

10)受託した産業廃棄物の収集・運搬量

処理方法等	廃棄物等種類	収集・運搬量(kg)		結果
		29期 (H18.8 ~ H19.7)	30期 (H19.8 ~ H20.7)	
収集・運搬	廃プラスチック類	4,610	6,560	1,950
	汚泥	86,260	65,400	-20,860
	下水道汚泥	67,960	55,960	-12,000
	廃油	343,380	339,810	-3,570
	動植物性残さ	4,270	3,440	-830
収集・運搬合計		506,480	471,170	-35,310

11)廃棄物の処理料金

産業廃棄物の収集・運搬委託料金については、廃棄物の種類・荷姿・重量・運搬の距離・数量等、諸事情が異なりますので、当社までお問い合わせ下さい。

TEL 098-939-3915

FAX 098-939-3916

2. 取組実績評価と環境目標

1) 当社における過去3年の実績は以下の通りです。

(小数点第二位以下四捨五入)

		単位	28期 H17.8～H18.7	29期 H18.8～H19.7	30期 H19.8～H20.7
総エネルギー投入量	購入電力	MJ	211,777.52	206,656.09	202,075.31
	化石燃料	MJ	1,062,051.07	1,044,707.81	906,927.12
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO ₂	8,143.63	7,946.69	7,770.55
	化石燃料	kg-CO ₂	72,488.27	71,287.97	61,886.69
収集運搬取扱量		t	465.95	506.48	471.17
水資源投入量		m ³	768.00	715.00	967.00
事務所から排出される廃棄物		kg	1,736.00	965.00	3,529.00
事務所から排出される廃棄物のリサイクル率		%	23.39	4.66	19.24

2) 環境活動の取組結果の評価及び見直し

(小数点第二位以下四捨五入)

		単位	29期 H18.8～H19.7	目標	30期 H19.8～H20.7	結果	評価
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	1,054.37	-2%	1,025.76	-3%	◎
	化石燃料	MJ/百万円	5,330.14		4,603.69	-14%	◎
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円	40.54		39.44	-3%	◎
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	363.71		314.15	-14%	◎
水資源投入量・総排水量	m ³ /百万円	3.65	4.91		35%	×	
環境保全取組実施率	%	78%	+1%	67%	-15%	×	

※水資源投入量が増えた要因は、下水道管渠清掃の業務を受注しましたので、増えています

環境保全取組実施率の結果については、チェックリスト表を大幅に見直した為のものです。

今回、EA21により環境に関する具体的な取組みをすることで、このような成果を出すことができました。今後も継続して取組んでいきます。

3) 32期(平成22年7月)までの目標値

(小数点第二位以下四捨五入)

		単位	28期(基準値) H17.8～H18.7	目標値	30期 H19.8～H20.7	目標値	31期 H20.8～H21.7	目標値	32期 H21.8～H22.7
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	1,121.33	-2%	1,076.48	-2%	1,054.95	-2%	1,033.85
	化石燃料	MJ/百万円	5,446.42	-2%	5,228.56	-2%	5,123.99	-2%	5,021.51
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円	43.12	-2%	41.40	-2%	40.57	-2%	39.76
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	371.73	-2%	356.86	-2%	349.72	-2%	342.73
事務所から排出される廃棄物		kg/百万円	25.74	-2%	24.71	-2%	24.22	-2%	23.73
水資源投入量・総排水量		m ³ /百万円	3.94	-2%	3.78	-2%	3.71	-2%	3.63
環境保全取組実施率		%	77%	1%	79%	1%	80%	1%	81%

※中長期目標は、28期の結果を基に作成いたしました。

3. 数値目標を達成する為の活動計画及び評価

環境項目	活動計画	結果	評価
総エネルギー投入量	夏場にはできる限りエアコンのスイッチを入れない努力に努める。仮にスイッチを入れる場合は室温28度以上の場合のみ使用し、室温26度に下がるまでの運転にすると共に、常に「ドライ・弱」にて使用する。冬場のストーブの使用も同様に、間欠室温15度以下の場合にのみ使用する。	○	良くできている
	使用しない事務所内の各種電気付属機器の電源は必ず切るようにします。	△	まだまだ
	毎週土曜日を、NO残業デーと決め、事務所の照明を消灯します。	△	まだまだ
	事務所構内の電気工具による作業は、無駄がないようまとめて作業を行うようにします。	○	まあまあできている
温室効果ガス排出量	アイドリングの禁止(出退勤時の自家用車にも摘要)を徹底します。	△	まだまだ
	急発進と空ぶかしをせず、安全運転を徹底します。	○	良くできている
	車輛の給油時に、タイヤの空気圧の点検を行います。	△	まだまだ
	収集運搬ルートについて事前に計画し、効率的な運搬に努めます。	○	良くできている
	エンジン吸気装置(エコチャージ)を導入して、営業・ガソリン車の燃焼効率を良くしCO2及び燃料消費量の削減に努めます。	△	まだまだ
	エンジンコンディショナー(MPG-CAPS)を導入して、燃費向上に努めます。	○	良くできている
産業廃棄物の最終処分場、焼却の割合	管清掃時に発生する下水道汚泥は、含水率が高いので現場で可能な限り水切りを行い、排出量の抑制に努めます。	○	良くできている
	産業廃棄物の最終処分及び焼却の割合を削減するため、排出事業者への分別排出の啓発に努めると共に、自社排出の廃棄物についても、リサイクル率向上の検討等を行います。	○	良くできている
	空き缶はアルミ缶とスチール缶に分別を徹底します。	○	良くできている
	社内書類に関しては、裏紙の再利用を徹底し、更にメモ用紙等にも使用します。	○	良くできている
	紙についてはダンボール・新聞・コピー用紙の分別を徹底します。	○	良くできている
	弁当の空き容器は自宅に持ち帰り、社内ゴミとして出さないことで、容器廃棄物に関する意識の向上を図ります。	△	まだまだ
水総投資排水量	高圧洗浄車の洗浄水には、社内の雨水タンクに貯水した水から使用します。	×	できてない
	現場地域の下水处理場処理水を、洗浄水として使用する施工計画を組むことで、上水利用の削減を図ります。	×	できてない

4. 環境への取り組みチェック結果

1) 自社に関する環境保全に関する施策

取組内容	26期			30期		
	H15.8～H16.7			H19.8～H20.7		
	満点	チェック結果	取組実施率	満点	チェック結果	取組実施率
1. 事業活動へのインプットに関する項目	40	40	100%	74	48	65%
1) 省エネルギー、新エネルギー使用の拡大	12	12	100%	26	12	46%
2) 省資源、グリーン購入	18	18	100%	28	24	86%
3) 節水、水の効率的利用	10	10	100%	20	12	60%
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	114	94	82%	212	154	73%
1) 二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止	18	16	89%	46	38	83%
2) 化学物質対策	6	6	100%	12	12	100%
3) 事務所等における一般廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理	66	54	82%	82	59	72%
4) 排水処理施設	24	18	75%	6	6	100%
5) 収集・運搬に伴う環境負荷の低減	-	-	-	66	39	59%
3. 環境経営システムに関わる項目	106	65	61%	174	106	61%
1) 環境保全のための仕組み・体制の整備	58	35	60%	82	51	62%
2) 環境教育、環境保全活動の推奨等	30	18	60%	40	24	60%
3) 情報提供、社会貢献、地域の環境保全	18	12	67%	44	28	64%
4) 環境ビジネス、技術開発	-	-	-	8	3	38%
合 計	260	199	77%	460	308	67%

当社は、主として上下水道のメンテナンス及び産業廃棄物収集運搬を行っており、特殊車両を使用した業務と、事務所での業務において関係する環境への取組み項目についてチェックを入れ採点しています。

【事業活動へのインプット項目のチェック結果より】

- ①省エネルギーについては、車両及びOA機器買い替え時期に対応していきます。
- ②省資源については、コピー用紙、トイレトーパー等の再生紙を使用致します。
- ③その他環境に配慮した物品等の購入については、エコ商品を使用致します。
- ④節水、水の効率的利用については、雨水の貯留タンクを利用致します。

【事業活動へのアウトプットに関する項目のチェック結果より】

- ①二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止については、空調の適温化を徹底致します。
- ②化学物質対策については、管理表を作り記録していきます。
- ③事務所の廃棄物の排出抑制については、書類等の控えはパソコンネットワーク内に保存し、ペーパーレス化に努めます。
- ④排出事業者の排出状況や運搬先の処理施設の状況を把握し、適切な収集・運搬計画を立てている。
- ⑤廃棄物の発生抑制と分別・リサイクルに積極的に取組み、環境負荷低減に努めます。
- ⑥アイドリングストップ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐停車中のエンジン停止等)を行っている。

【環境経営システムに関する項目のチェック結果より】

- ①環境保全のための仕組み・体制整備については、環境保全上、必要な作業手順や運用基準等を明確に定めていきます。
- ②環境教育、環境保全活動の推奨等については、担当者だけでなく、社員全員で環境保全の勉強会等に参加します。
- ③情報提供、社会貢献、地域環境保全については、地域のボランティア活動に積極的に参加致します。

5. 代表者による全体の評価と見直し

評価としては、水資源投入量・総排水量以外は、目標を達成しているので良しとします。今回の取組結果で、水資源投入量・総排水量が増えた要因は、下記3点に要約されます。

- ①公共下水道管渠の緊急作業が多く、社内水タンクからの給水が増加
- ②公共下水道管渠の夜間(徹夜)作業では、下水道処理場内の処理水の再利用ができない。(入構不可の為)
- ③社内に廃品利用で新規の貯水タンク(10t)を新設した時期と、上記①②とが偶然重なってしまった結果、安易に新設タンクの利用が増加した。

また、事務所内の廃棄物が増えた理由としては、去年大型の台風が直撃した為に、事務所内の壁をリフォームして処分した事によるものです。

今後は、活動計画に示している下水道処理水及び雨水タンクの雨水の利用を徹底して、環境保全に努めてまいります。

6. 環境関連法規への違反、提訴等の有無

環境関連法規への遵守状況及び環境に関する苦情の受付状況は次の通りです。

内 容	結果
法律違反の有無	無
訴訟の有無	無
環境に関する苦情の有無	無